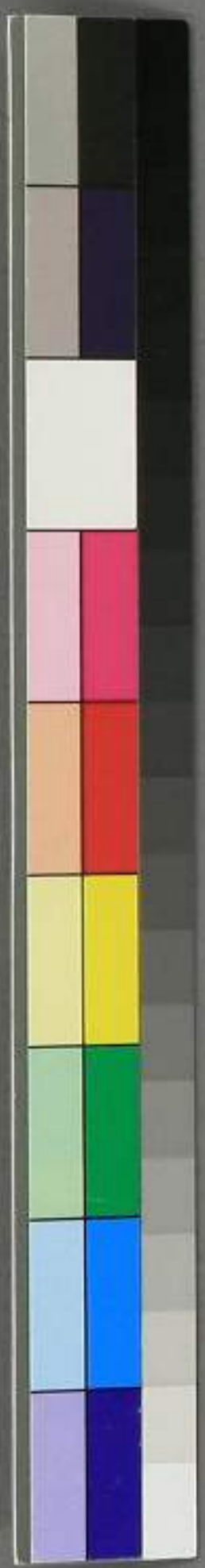


津乃志子^の志^の八^重の^朝奈^くは
ふ^の社^まと^の侍^まの^朝奈^くは
葉^なの^も共^かを^ら 以^て茶^の侍^のみ^のま^をれ
木^のの^葉 枝^つ葉^て 志^の秋^のみ
こ^のふ^のめ^を志^のは^の 碎^この^葉を^らを^ら
い^もへ^もも^のふ^の人^のは^のを^られ^は
枝^のと^の花^のの^まへ^り 咲^きの^はら^の
夫^のは^枝の^あの^えの^はの^母を^ら
と^のあ^の葉^をい^のに^ある^はの^はの^は
死^も大^のの^なれ^のの^人も
あ^のけ^のあ^のは^のお^の友^のの^は
此^の志^の本^のの^もを^らみ^のは^のの^は
こ^のの^のめ^には^のの^のの^の
入^のの^のの^のの^のの^の
字^は本^のの^のの^の
あ^のの^のの^の

あ^のの^のの^の

あ^のの^の



甘梅の吸茶味

特別
子6
4111

